

	実態と課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・物語は内容の読み取りはおおよそできるが、説明文の要点をまとめることが難しい。 ・作文は、経験したことの中から書くことを決め、文章を書くことができる児童が増えてきた。 ・漢字学習は意欲的に取り組むが、文章を書くときに習った漢字を使っておらず、漢字の定着が不十分である。 ・言葉の意味や使い方を知らない児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章では、大切なところや事柄の順序を考えながら内容を読み取らせ、まとめる練習をする。 ・話を聞く姿勢や集中できる環境づくりなど、話の聞き方から指導し、話の大切なところを確認しながら、集中して聞く経験を積ませる。 ・学習した漢字や言葉を文章の中で活用できるように、漢字等の家庭学習を繰り返す。国語辞典や漢字辞典をさらに活用し、語彙力を高める。 ・読書は、朝読書や読み聞かせ、図書の時間を活用して、その時々に応じて、いろいろな種類の本を選ぶよう支援する。また、音読に毎日取り組ませる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学や体験学習を通して、社会科の学習に興味をもって取り組んでいる児童が多い。 ・まとめの新聞作りをすすんで書く児童が多くなっている。 ・グラフや表等の資料の読み取り方に慣れていないため、とまどう児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習を計画的に取り入れ、興味・関心を高める。 ・授業後、まとめの学習として学習新聞や感想を書き、理解していることを確認する。 ・資料読み取りの仕方を丁寧に指導する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力において個人差が大きく、特にわり算においては商を立てるのに時間がかかる児童が多い。 ・コンパスを用いた作図は、興味をもって取り組んでいる。 ・数直線を読み取ることを苦手とする児童が多い。 ・数学的な見方、考え方については苦手な児童が多い。 ・図形の領域においては、平行・垂直の作図が正しく書けない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では学習の到達度を個別に確認しながら学習を進める。またプリントやミライシードで、繰り返し練習する。 ・既習の基礎的な学習は、朝学習などで復習し習熟を図る。 ・作図の技能向上のため、模様作りなどを行う。 ・数学的な見方、考え方の力を高めるため、文章題に取り組み、文章の意味の読み取り方、筋道を立てて考える方法などを教え、思考方法を身に付けさせていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・理科室での実験が増え、意欲的に観察や実験に取り組んでいる。実験の予想や結果からの考察を楽しんでいる児童が増えたが、知識の定着にはつながらないことがある。 ・季節と生き物の学習では、自然環境から学習する生き物を実際に観察することができないことがあり、理解が不十分な児童がいた。 ・理科室の使い方や実験器具の使い方を学び、用具を安全に正しく使えるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の際は、課題把握、予想、観察・実験、結果、考察などの問題解決の流れをつかませる。 ・実験の予想や結果の考察の場面では、話し合い活動を取り入れ、科学的な思考力を高める。 ・観察・実験の結果と身近な科学的事象を結びつけさせたり、視聴覚教材などを取り入れたりとすることで、知識・理解を確かなものにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことを楽しんで意欲的に歌っている。響きのある美しい声で歌おうとする児童が増えてきている。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの技術面で、個人差が大きくなってきている。 ・音楽を聴いて、豊かに情景を想像することはできるが、それを音楽の要素と結びつけて捉えるまでには至らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の冒頭に「今月の歌」を使って、歌声を遠くに響かせる方法を具体的に示し、歌唱技能を高める。 ・簡単な旋律で、息の使い方・タンギング・運指などの基本を意識させ、きれいな音で演奏できる体験を積ませる。 ・児童の発言を整理して板書するなどして、感じ取ったことと音楽との関係を全体で共有できる場をつくる。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動に意欲的な児童が多いが、発想が広がらず既成のキャラクターを安易にまねてしまう児童もいる。 ・たくさんの用具を同時に使う場面が出てくるが、技能に個人差がある。 ・友達の作品のよさを積極的に発表したり、アイデアを共有したりすることを楽しむ児童が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫のきっかけとなるような掲示物や工作材料コーナーを活用し、活動が停滞している児童への適切な指導や支援を工夫する。 ・活動の流れを視覚的に示し、児童が見通しをもって活動できるように配慮する。また道具の扱いについては個別に援助する。 ・制作途中に鑑賞の時間をとったり、道具を共有することで発生する自然な関わりを多く取り入れ、よさを具体的に伝えたり、自分の作品に生かしたりできるよう助言する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童が多い。 ・ボールゲーム運動では、作戦を考えながら取り組めるようになってきている。 ・運動経験の幅が狭い傾向がある。 ・体力テストの結果から、持久力、投力が劣っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なわの日に向けて、長縄の練習をする。跳ぶタイミングの取り方や縄を回す速さを指導する。 ・様々な運動を体験させ、運動の楽しさを味わわせるようにする。主運動につながる運動感覚を身に付けられるようにする。 ・学校だけでなく、家庭や地域でも日常的に運動に取り組むよう呼びかける。 ・学習カードを活用しながら思考・判断面の意識を高めるとともに、長い距離を自分に合ったペースで走ることができるようにする。